

平成二十四年度 総合問題 (文学科 日本語日本文学専攻) 解答例

□ (一〇〇点)

- 問一 ①ききよう ②ほどこ ③哀切 ④透明 ⑤美麗
- 問二 動詞、形容詞、形容動詞、名詞(、代名詞)、副詞、連体詞、接続詞
- 問三 わんわん 犬がわんわん吠える。
ゆらゆら ぶらんこがゆらゆら揺れる。 など

問四 漢語に対してもそこにオノマトペ的性格を求めて過敏に反応を示す(三十字)

問五 (1)漢語が平仮名で表記されている。

(2)漢語をオノマトペのように使っている。

問六 朔太郎オリジナルのオノマトペ、漢語のオノマトペ化

問七 風の又三郎、銀河鉄道の夜、グスコープドリの伝記など

問八

(1)のみ すなはち(すなわち)

(2)所^レ貴^ニ乎人声^一者、有^ニ其文辞^一焉。

(3)以て音声を兼ねて(而して)之を得べし

(4)人の声は言葉であるので音楽とちがいがい失われにくい。古い時代の歌は音楽が失われてしまっても、歌詞から音楽を得ることができる。

※「声(＝音声)」……音楽

「人声」……人の声

「文辞」……言葉

「辞」……歌詞

□ (一〇〇点)

問一 ①おこた(って) ②がんちく ③いつわ ④ばいかい ⑤じじら

問二 妙観の刀はそれほど切れないということだ

問三 b 過ぎてしまったことが恋しく思われることだけはどうしようもない

*完了の助動詞と直接体験の過去の助動詞「にし」が訳せていること

c 残しておくまい(残さないでおこう)

*打消し推量の助動詞「じ」が訳せていること

d いつの年だっただろうか(いついつの年だったろう)

*過去推量の助動詞「けむ」が訳せていること(疑問形でも肯定形でも可)

問四 文学研究者が『徒然草』を現代的な解釈をして兼好の時代の中で把握する作業を怠った

り、歴史の研究が他の史料でも確認できる範囲に限って部分的に考察したりしてきたこと。
(七十九字)

問五 懐古趣味

問六 特定しやすく考えること

問七 記憶は時代の回想とともにあり、事実の取り違えや勘違いも多いが、その記憶の総体こそが人を動かし歴史を作っているから。(五十五字)

問八 院政